

日本スポーツボランティア学会第1回大会

2004年12月23日

主催 日本スポーツボランティア学会

会場 東海大学代々木校舎

第1回学会大会事務局：〒259-1292 神奈川県平塚市北金目1117

東海大学生涯スポーツ学科 新出研究

—

視覚障がい者ランナーと伴走者の現状分析

- 左右の伴走位置実態およびその理由の調査 -

鈴木 邦雄、新免 哲朗、高橋 隆子、長島 孝雄、袴田 悦子、千葉 信野

視覚障害者 盲人マラソン 伴走 位置 ランナー

. はじめに

20 年前に伴走を始めた頃、中途失明の視覚障がい者ランナーの伴走者は右側に伴走者が位置するケースが多いと指導を受けた。近年になりその実態について疑問を持ち、本当にそうであるかと調査を行なった。合わせて伴走者の位置について視覚障がい者からの理由なども調査し、伴走の実態を明らかにし、視覚障害者ランナーが伴走者に何を求めているか調査しようとしたものである。

. 方法

1. 対象者および調査方法

本調査は 2002 年に行なわれた『第 20 回 J B M A (注 1) マラソン小田原大会』の参加者(35 名)、一般の練習会などで会う事が出来たランナー(11 名)、またインターネットなどで(3 名)本調査に協力を申し出てくれた視覚障がい者ランナーに対しアンケートに答えてもらう方法によって行なった。ただほとんどの方が自筆で記入する事が出来ないため質問者が代筆することで調査を行なった。(注 1: 日本盲人マラソン協会)

対象者の住所は東京(21 名)、神奈川(5 名)、埼玉(5 名)、福島・福岡・茨城・栃木が各(2 名)、鹿児島・京都・群馬・静岡・千葉・富山・長野・奈良・山梨・広島が各(1 名)である。男女別では男(31 名)、女(18 名)、障害別では B 1(全盲・光覚)(37 名)、B 2(12 名)という内容である。

2. 調査項目

- 1) 年齢
- 2) 男女別
- 3) 障害内容(視力区分)
 - B 1 = 視力 0 ~ 明暗弁、
 - B 2 = 手動弁 ~ 0.03 または視野が 5 度未満の片方または両方
- 4) 参加種目(小田原大会では参加種目、その他の対象者は良く出る種目)
- 5) 障害時期(中途失明 / 先天盲の区分)
- 6) 利き腕
- 7) 白杖を持つ手
- 8) 伴走者の位置(左右の別)
- 9) 伴走者を左右に位置してもらう理由(記述式で複数回答あり)

対象ランナーの現状

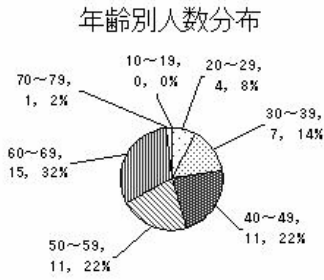


図1 年齢別人数分

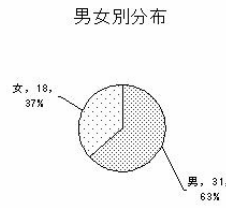


図2 男女別分布

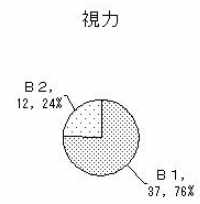


図3 視力別分布

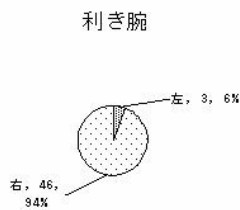


図4 利き腕別分布

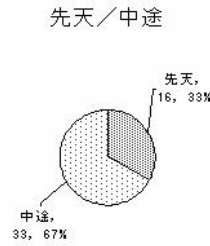


図5 先天/中途別分布

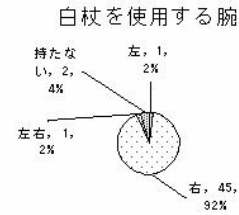


図6 白杖を使用する腕

結果

1) 伴走者の左右の位置の調査結果

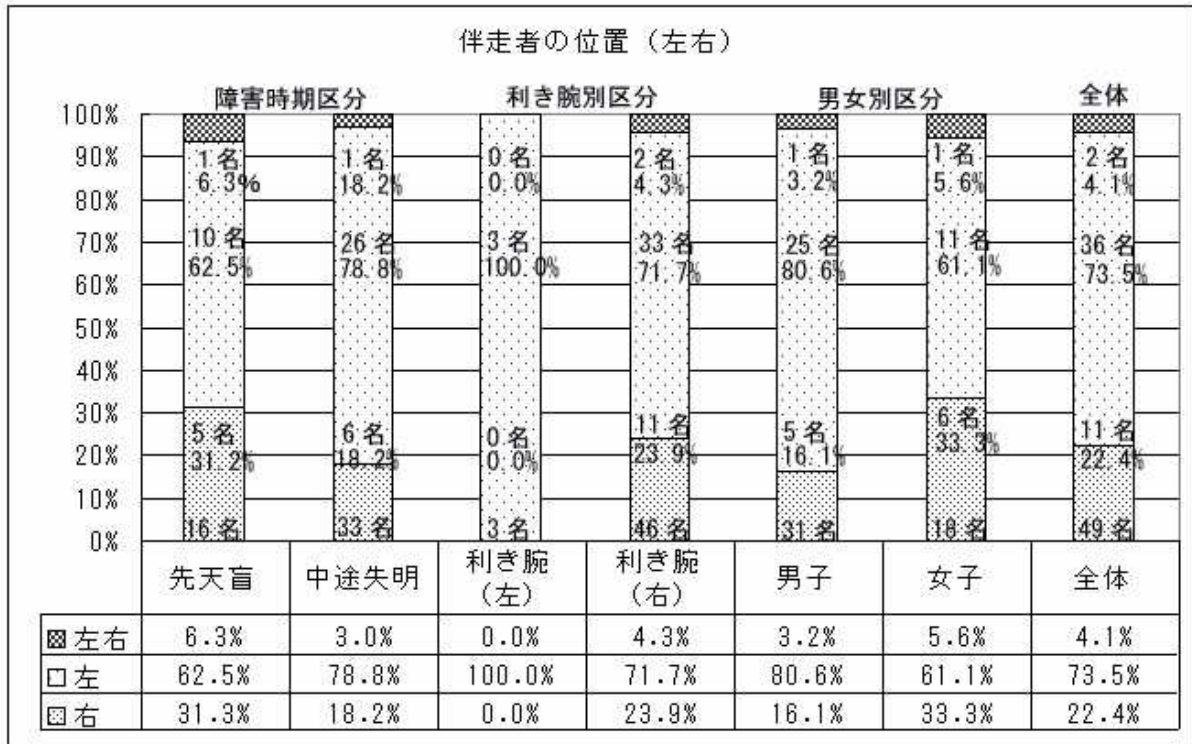


図7 伴走者の位置 (左右)

2) 伴走者の位置を決める理由 (複数回答あり: 全回答数 = 55)

表1 伴走者の位置を決める理由

番号	理由	回答数	左	左右	右	回答者の割合
1	理由なし	9	3	2	4	16.4%
2	走りやすい	9	6	2	1	16.4%
3	左の縁石などが怖い(道路、トラック)	7	7	0	0	12.7%
4	ヘルパーさんの位置が左なので左に伴走者	5	5	0	0	9.1%
5	利き手が自由	4	4	0	0	7.3%
6	利き腕側に伴走者	3	2	0	1	5.5%
7	トラックで有利	3	1	1	1	5.5%
8	利き手を空けておく	3	3	0	0	5.5%
9	左に曲がることが多いから左に伴走者	2	2	0	0	3.6%
10	視力のあるほうに伴走者	2	2	0	0	3.6%
11	円周走で左にロープを持つから	1	1	0	0	1.8%
12	左がマヒしているので右に伴走者	1	0	0	1	1.8%
15	右に寄りがちなので伴走者に押しもらう	1	0	0	1	1.8%
14	左に曲がりやすい	1	1	0	0	1.8%
15	盲導犬のハーネスを左で持つので伴走者が左	1	1	0	0	1.8%
16	耳の聞こえが良いほうに伴走者	1	1	0	0	1.8%
17	エイドで給水などとてももらいやすい	1	1	0	0	1.8%
18	視力の悪いほうに伴走者	1	1	0	0	1.8%
合計		55	41	5	9	100.0%

考察

1) 対象ランナーの現状

年齢別分布については調査対象者の多くが20回記念の小田原大会であったこともあり、古くからの常連ランナーが多数を占めた感もあり、若年層の調査対象者が少なかった。一方で男女別では一般の大会に比べて女性ランナーの比率が大きいのではないかと思う。

視力区分ではB1(全盲・光覚)が全対象者の76%を占めており、一般に言われる全盲は視覚障がい者の約2割を大きく上回っているが、今回の調査は伴走者の実態調査であるので伴走者を不要とするB3ランナーに対して調査を行っていないのでその影響であると思う。

2) 伴走者の左右の位置の調査結果

障害時期区分(先天盲・中途)では先天盲16名中、左に伴走者が位置する場合は10名で62.5%、中途失明者で左に伴走者が位置する場合は33名中26名で約79%との結果で、本調査を行なうきっかけになった「中途失明」は右側に伴走者が位置する場

合が多いとの定説を覆す結果となった。

その他の例でも左に伴走者が位置する場合は 61% から 80% を占めており、一般的に伴走者が左側に位置する場合は圧倒的に多いことが判明した。

3) 伴走者の位置を決める理由

視覚障がい者ランナーが伴走者に左右どちらに位置してもらうかは安全性、走りやすさなどの重要なファクターであると考ええる。

今回の調査では「1の理由なし」と、「2の走りやすいから」が全体の 33% を占めた。しかしこれに関しても何らかの理由があるはずで、今後の調査によってこの理由を解明したいと考えている。

その他の理由に関しては障害を持っているためにそれをカバーする位置に伴走者に位置してもらいたいなどが多く見られる。

特に注目することは「3の左の縁石などが怖い(道路、トラック)」とランナーが述べている点である。これに関しては全回答数の 12.7% (7名) が答えている。道路には歩道、側溝などの危険が存在するし、安全と思われる陸上競技場のトラックにもフィールドと走路を区分する仕切りが存在するが、これが怖いと思うランナーはこれらに接触するなど、怖い思いを経験したことがあったのだろうと想像する。

. まとめ

- 1) 、今回の調査は視覚障がい者ランナーと伴走者の位置を調査する目的で行なったが、全般的に伴走者が視覚障がい者ランナーの左に位置する場合は全体の約 70% であることが判明した。
- 2) 、中途失明者の場合はランナーの右に伴走者が位置する場合は多いと言われてきたが、今回の調査では中途失明、先天盲の区別は有意には区別できなかった。
- 3) 、伴走者を左右に位置する理由については、特に有意の理由を意識しない場合が約 33% だが、反面左の縁石が怖いと述べているランナーが全体の 12.7% も存在する。これは伴走者の誘導テクニックと信頼関係にも大きく関係することで、伴走者がランナーから信頼してもらえるかの大きな要因ではないかと考える。
- 4) 、前記の道路などの縁石が怖いと答えた視覚障がい者ランナーの恐怖心を取り除くためには伴走者の適切な誘導(走路情報の提供)、信頼関係など伴走者にとっては課題が大きいだが、この事が伴走というスポーツボランティアの根幹を現しているのではないかと思う。

. 参考文献

- 視覚障害者福祉ハンドブック (松井新二郎 著 発行: 日本盲人社会福祉協議会)
視覚障害と認知 (鳥居修昇 著 発行: (財)日本放送大学教育振興会)